

水の郷シンポジウム2009

～かけがえのない水環境を守ろう～

すべての源である水の大切さを確かめました

水の郷シンポジウム2009(町主催)が、10月31日、仙南公民館で開催されました。

生命やくらしのすべての源である水環境への関心を高め、その保全活動につなげることを目的に、昨年度に引き続き開催されたもので、町民など約400人が参加しました。

は水環境です。町民一人ひとりの力を合わせて守っていかねばなりません。」とあいさつを述べました。続いて、平成21年度「水環境マイスター養成講座」全課程修了生に修了証の授与、水に関する読書感想文コンクールの表彰が行われました。



▲大山のぶ代さん

また、ドラえもんの声でおなじみ、女優の大山のぶ代さんを講師に「たかが水、されど水」と題して基調講演が行われ、大山さんは、自分

身の幼少の頃からの体験を交えながら「水があたり前に使えることは幸せなことである。水もモノもいつまでも大切に使用していかなければならないことを子どもたちに教えていかなければならない」と呼びかけました。

その後、今年度町から水環境学習モデル校に指定された、仙南東小学校、仙南西小学校、金沢小学校の各4年生による学習発表では、授業で学んだことや、田植えや植樹などの体験を通して学んだ水の大切さや、環境に対する意識の変化などが訴えられました。

最後に、津村守さん(秋田県環境カウンセラー協議会会長)をコーディネーターに、水環境学習に関わりの

あった5人の方をパネリストに「水環境学習を通して思うこと」をテーマにパネルディスカッションが行われ、「美郷の水の豊かさを再認識した」「水環境を守るには地域のつながりも必要」「水の飲み比べをしたら、美郷の地下水が一番おいしかった」などの意見が聞かれ、参加した方々は、美郷町の水環境に関する意識をかけがえのないものとして深めていきました。



▲水環境への意識を深めたパネルディスカッション

水を学ぼう

水環境学習モデル校による発表



仙南東小学校4年生による発表
「水の大切さ物語～環境劇～」



仙南西小学校4年生による発表
「飲み水について調べてみよう」



金沢小学校4年生による発表
「ぼくらもりっこ 水探検隊！」

美郷産品はこしも大好評!

OTA(おおた)ふれあいフェスタ

友好都市である東京都大田区最大のイベント「OTAふれあいフェスタ」が11月7日、8日の2日間にわたり、同区平和島競艇場などを会場に開かれ、JA秋田おぼこや直売所、酒販協会など約40人の皆さんが参加し、野菜をはじめとする町内産品を販売・PRしました。

昨年に引き続き行われた美郷米PRコーナーでは、試食やサンプル米プレゼントを実施、さらなる売り込みを図りました。またこのほか、会場には、美郷米ののぼり旗を掲げる同区美郷米取扱米穀店のコーナーも見られました。

ことは、35万人もの来場者で賑わったというOTAふれあいフェスタ。美郷をPRする絶好の場となりました。



▲にぎわいをみせる美郷町物産展



▲美郷米ののぼり旗を掲げる大田区の米穀店コーナー

職員人事異動(11月1日付) (内は前職)

【建設課】▽建設管理班主任技師(総合サービスク主任技師) 奥山学▽建設管理班主任技師(総合サービスク主任技師) 野村博明▽建設管理班技師(総合サービスク技師) 小田長衛

風



▲11月7日、OTAふれあいフェスタで美郷町をPRする松田町長

「感受性と環境」

美郷町長 松田 知己

「あゝ、やっぱり仙南の空気だ」。先月中旬、修学旅行から帰ってきた仙南中学校の生徒が、校舎前でバスから降りた直後に口にした言葉です。寒空のもと、薄手のウインドブレーカーで震えて待っていた一保護者の私は、瞬間、心が温まりました。

「物理的にも心理的にも、都会でいろんな空気を吸ってきたんだろうな」。そんな想いととも、こういう感受性で地元に戻った安堵感を表現できる子供たちが目の前にいることに、私は何とも言えない嬉しさを覚えました。

感受性は人に言われて何とかなるものでもありません。また勉強で何とかなるものでもありません。すべては一人ひとりの経験と思慮、そして日常生活の空気

で無意識に育まれるもの・・・と私は思っています。だから、私は嬉しかったのです。生徒が心豊かに成長していること、そして日常がしっかりしていることの証しでもあるからです。

その感受性、育んでいくにはやはり環境は大切です。学校、家庭、地域それぞれにおいて、子供たちが我慢も含めていかに経験を積みやすい環境か、また思慮を深めやすい環境か、さらに日常がいか

に平穏な環境にあるのか、そこが大切だと私は思っています。

現在進行中の学校統合は、まさにこうした環境整備の一環です。勉強においても部活動においてもいろんな選択肢があつて、一定人数のもとで切磋琢磨し、多くの人間関係を築きながら経験を積んでいく。そしてその過程において思慮を深める。またそうした生活が、望ましい施設と設備の中で静かに流れていく。こういう環境が、子どもたちの豊かな感受性を育んでいくと私は信じています。みなさんには、町の学校統合の取り組みに改めてご理解をお願いするとともに、家庭や地域におけるご配慮もどうかお願いいたします。

ドロシー・ロー・ノルト博士の名著「子どもが育つ魔法の言葉」に次のような言葉があります。「和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる」。家庭という部分を学校や地域に変えても成り立つ、至極の名言です。

移動町長室

町長が毎週火曜日に仙南庁舎、木曜日に千畑庁舎で執務しています。(会議への出席などにより、実施できない場合があります)